SHINGON HORONIC

色 は 匂 へ ど

IRO WA NIO E DO

PHOTO SHU FUJIWARA

特集　塔と大塔

好評連載　弘法大師の芸術論

西宮紘

平成十二年水無月一日発行　巻十五

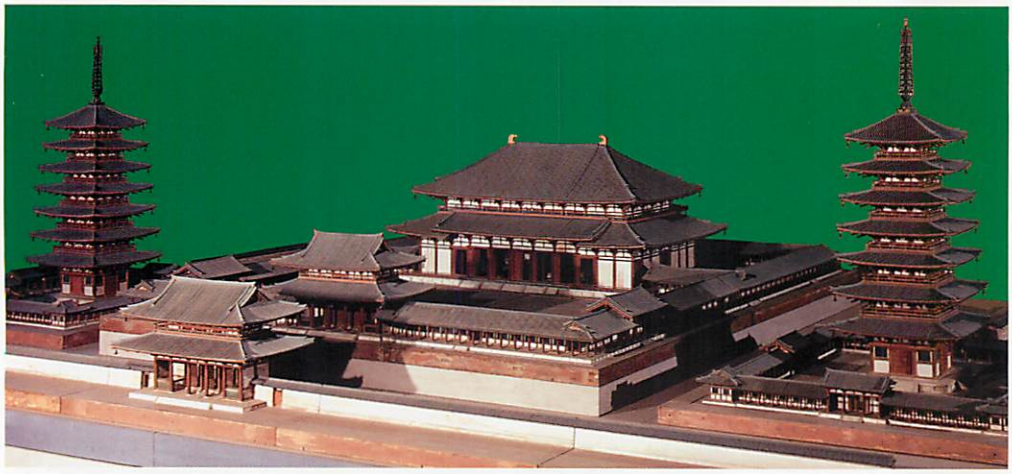


写真　飛鳥園

出雲の太郎　大和の次郎　京の三郎

最近次々と歴史的な発見が続いている中で先日、出雲大社の巨大な柱が発見された。

平安貴族の『口遊』に雲太、和二、京三と歌われたのは建築の大きさの順で、出雲大社が一番大きく、ついで大和の東大寺、三番目が京都の大極殿。

東大寺大仏殿は創建当初高さ約四十五メートル、東西の七重の塔は百メートルの高さがあった。

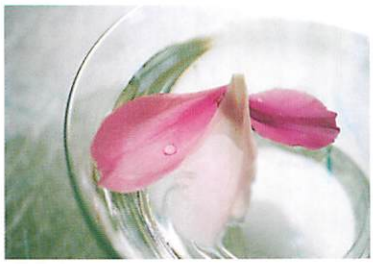
しかし出雲大社の壮大な社殿が建立される約二百年前に弘法大師が高野山上に建立された大塔は高さ十六丈（四十八メートル）つまり出雲大社と同じ高さがあった。しかも人跡未踏の険しい山上での建立は未曾有の大事業だった。

弘法大師空海は若くして東大寺の別当『管長職』をつとめられ真言宗とは極めて深い縁がある。また大仏さまのお首が八百五十五年五月二十三日に地震により落下する。お大師さまの直弟子で後に天竺を目指し羅越國で行方を絶たれた高岳法親王真如が『修理東大寺大仏司検校』に任ぜられ、八百六十一年三月十四日に開眼供養が行われた。

編集主幹　阿部龍樹

特集　塔と大塔　3

お釈迦さまの真理の花束　13



現代の道しるべ　15

弘法大師墨蹟聚集の全貌　その四　11

弘法大師の芸術論　西宮　紘　17

新刊の紹介

『日本流』　松岡正剛　春秋社

『ピーターたちのゴルフマナー』　ゴルフダイジェスト社

『日本全国湧水ガイド』　マガジンハウス社　18

特集　塔と大塔

塔は功徳の聚(あつ)まりにして、福徳と智慧を顕す

岩に刻まれた二基の仏塔　天蓋から幡が翻り天女が舞う

仏教の塔の起源は、お釈迦様のお舎利を八大国の王が分け、それぞれがお舎利を供養する仏塔を建立したことに始まります。

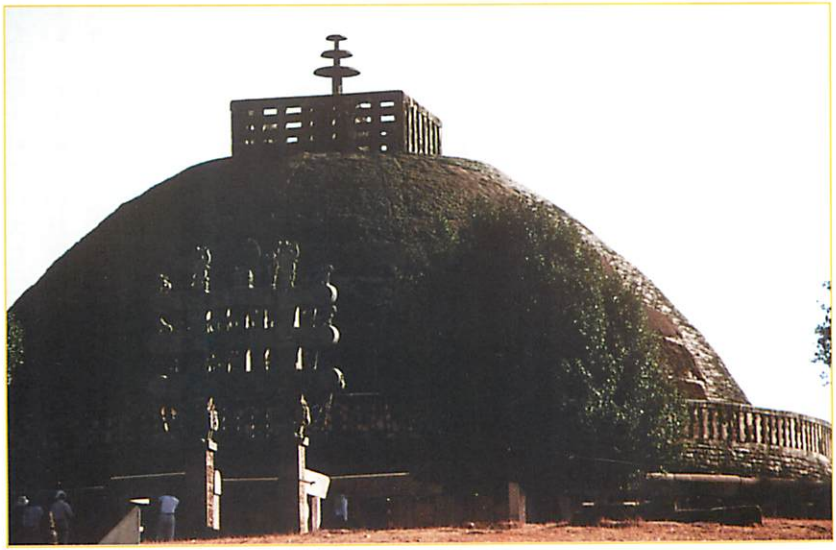
お釈迦様はクシナガラで最後の説法をされた後、沙羅双樹のもとに涅槃に入られ、茶毘にふされます。そのご遺骨をいただき仏塔を建立して供養したいという部族間の争いがあり、ドローナというバラモンの仲裁で八大国に分骨され八大仏塔（スツーパ）が建立されます。

後にアショーカ王はさらに八万四千に分骨し国中に仏塔を建立しました。このとき龍王ナーガに守られた仏塔だけは扉が開かず、他の七塔から仏舎利を分けたと伝えられています。今も残るアショーカ王柱です。

インドのサンチーの大塔はもっとも原初的な姿を今に伝えています。

仏像がガンダーラで出現する以前は仏塔そのものがお釈迦様をあらわし信仰の対象に成りました。さらに仏塔が無くても仏塔の塔の図やレリーフも信仰の対象になりました。

その後仏塔はアジア全域に広まり多種多様な塔を現出させます。日本では法隆寺に最初の塔が建立されました。



インド西方、サンチーの大塔。サンチー大塔は豊かな丘の上にあり第二塔、第三塔や数十の僧堂、祠堂に囲まれる。紀元前三世紀アショーカ王によって建立され、さらに在家の男女数百人と多くの比丘、比丘尼により規模が拡大された。門柱や欄楯には仏伝やジャータカ、動物や鳥や花が刻まれている。

北条政子が源頼朝の菩提を供養するために建立した金剛三昧院の美しい大塔

東大寺の東西の七重の塔は百メートルの高さを誇り、薬師寺の塔は美しい水煙を天空にかかげました。

塔はお釈迦様のお舎利を供養しお釈迦様の心を伝える最も大切な建築として寺院の中央に位置していました。

七重でも三重でもお釈迦様のお舎利を供養することにおいて塔の意味は同じでしたが、平安初期、お大師さまが唐の都から密教を伝えられ、日本に真言宗を開創されると、形においても意味においてもまったき次元を新たにする壮大にして美しい塔が高野山に造建されました。

唐　西安の大雁塔

高野山に建立された根本大塔です。高さ十六丈。春に発見された出雲大社の巨大な柱から出雲大社の高さが十六丈という日本最大の建造物であったことが発表されましたが、高さ十六丈の出雲大社の社殿が建立されたのは十世紀後半とみられますので、それよりも約二百年もまえに人跡未踏の、しかも誰もが経験のない様式の巨大な塔の建立はまさに未曾有の大事業でした。

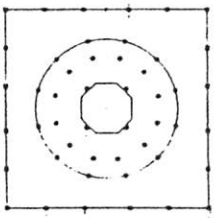
高野山の地を下賜された七年後に平安京の東寺を賜りますが、東寺は国家の寺としてその造営には国の力がありました。しかし高野山はまったくの私寺ですからその建立には多大な困難があったことは容易に想像できます。

醍醐寺　五重の塔　内部の心柱には金剛界、胎蔵法両部の曼荼羅が描かれ、側板には真言八祖像が描かれている

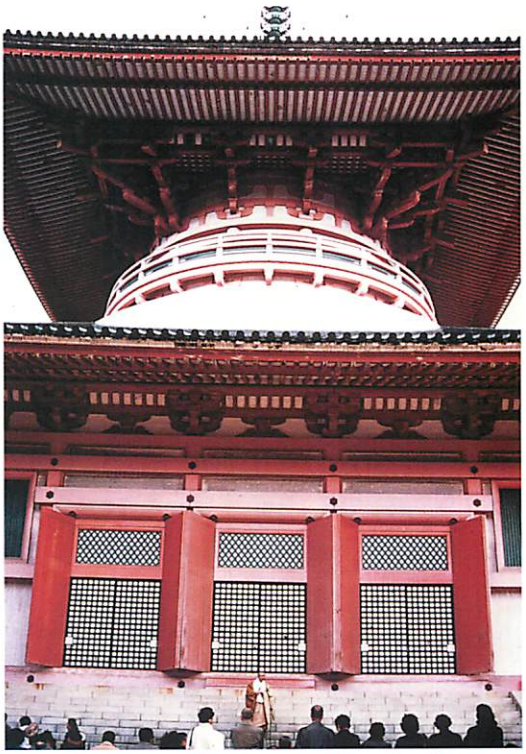
金岡秀友氏は、日本の古刹名刹六百七十ケ寺を調査したところ、弘法大師が六十七ケ寺を建立し群を抜いています。鎌倉仏教によって仏教が大衆化されたようなことがいわれますが、鎌倉時代の祖師はいずれも十ケ寺程度です。

弘法大師に次ぐ建立は奈良時代の行基菩薩でした。

真言密教には金剛界と胎蔵法の二つの大曼荼羅が宇宙の真理を解きあかしていますが、その二つの曼荼羅が融合する世界が究極の世界です。それを金剛界胎蔵法両部不二といいます。大塔は多元的かつ多重構造をもって金剛界胎蔵法不二の曼荼羅世界を初めて現出せしめたのです。



創建大塔復原見取図



創建当初の規模で聳える高野山大塔

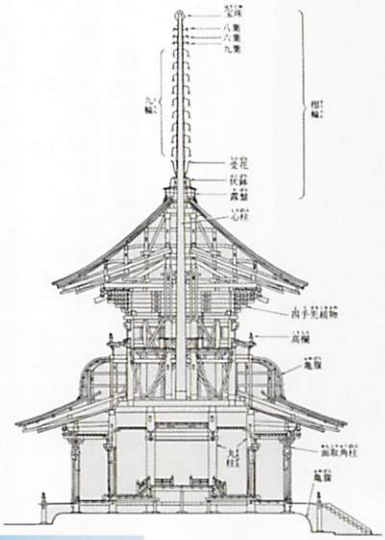
大塔を平面で観れば一層が方形、真ん中が円形、そして二層がまた方形と、方・円・方と方円を多重に組み合わされているのが良くわかります。さらに柱は四十一柱。扶柱をいれると六十一本という数は未曾有です。高さ百メートルの東大寺七重の塔でも柱は二十九本ですし、大伽藍であった東寺の講堂でも四十二本であることを考えると、大塔の六十一柱はまさに異例です。

しかしその柱それぞれに意味がありました。

中央の心柱は曼荼羅の中央にいます大日如来。その廻りに四方四佛が安置され、その四隅の柱には四波羅密の四菩薩を意味し、内陣十二柱は、それぞれ王、愛、喜、光、憧、笑、利、因、語、護、牙、賢の十二供養を意味します。さらにその外側の二十柱は金剛界の二十天を顕しています。したがって二十四メートル四方の平面をもち、高さが四十八メートルになる必然がありました。

大塔を立面で観ると五輪塔の形をしています。下から方・円・三角・半月・宝珠の形になります。さらに塔最上部の相輪も密教独特のもので、それまでの塔の相輪は下から露盤、覆鉢、受花、九輪、水炎、竜車、宝珠として形式化されています。大塔は九輪の上

満願寺小塔　大塔と全く同じ木組みで造られている



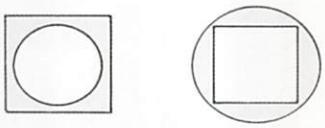
に、四葉、六葉、八葉その上に大炎光を放つ大宝珠が飾られています。

九輪は胎蔵八葉の九尊で、四葉は二十天を東西南北に配し、六葉は明王部の華座、八葉は佛菩薩の華座であり不動明王の華座でもあります。

頂きの大宝珠は大菩提心を顕し、さらに上層四方の棟にも宝珠を飾り大宝珠とあわせて五智如来を顕していてそこに張られた鎖は相互供養を顕しています。

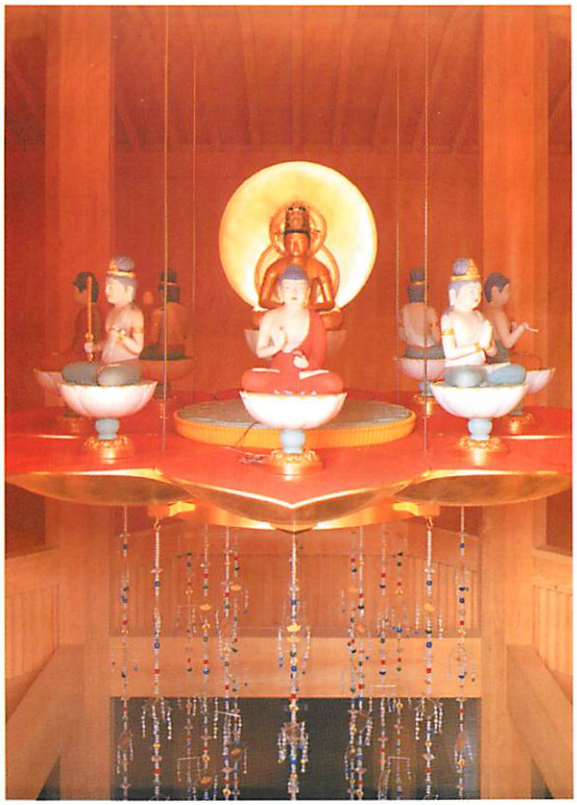
こうして密教のすべての意味をこめた大塔が完成し、その後日本中に大塔が建立されていきます。その美しさゆえに多宝塔と呼ばれることが多い大塔です。今、ご法事であげられるお塔婆は、お大師さまが誰にでも塔が建立できるようにと考えらたものです。正面には胎蔵法の梵字を反対には金剛界の梵字を記し金剛界胎蔵法不二を顕すお塔婆はもちろん真言宗ならではのものです。そして塔そのものが福徳と智慧を顕し、塔の建立は大きな功徳を積むことになります。

満願寺大塔相輪、頂上炎光には水晶の五輪塔が燦然と光を放つ

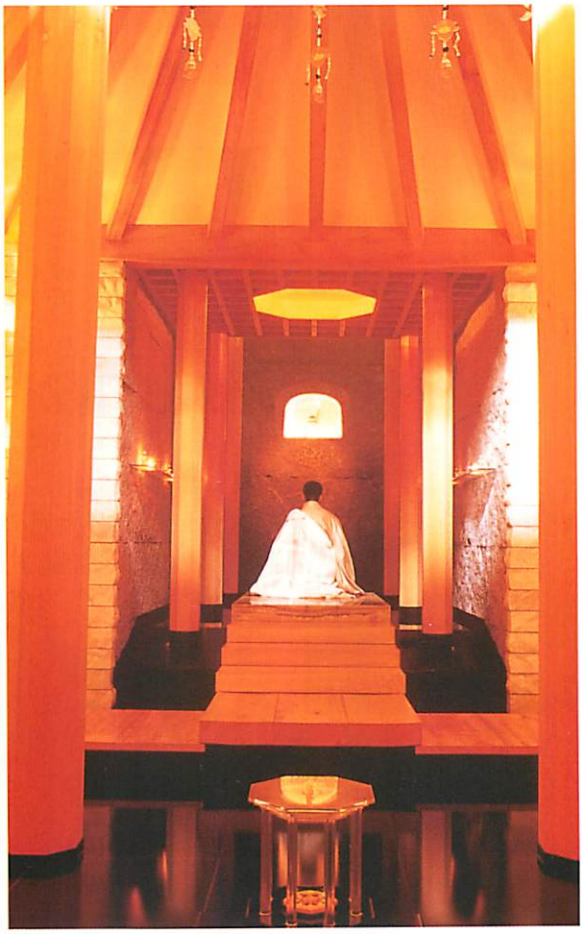


方円で表す胎蔵法と金剛界
お大師さまは方円の図を描いて瞑想をされた
大塔平面はこの図を組み合わせたもの。

五輪塔　左胎蔵法　右金剛界



満願寺大塔初層の虚空に浮かぶ中台八葉の胎蔵立体曼荼羅



満願寺大塔基壇層内部　初層大蓮台がそのまま美しき大天蓋となり真舎利を荘厳する。正面には釈迦如来の仏頭が安置されている

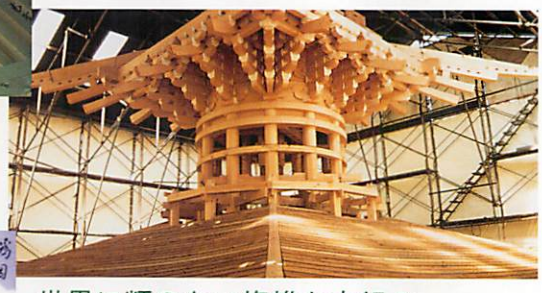
大塔が出来るまで

地鎮鎮壇の秘法

心柱と四大柱を曳く木曳き式

厳粛な四天柱立柱の儀

すべての用材に名入れがされる



世界に類のない複雑な木組み
用材には『いろは』で記号が打たれる
お大師さまが大塔の構想を諸職に示すために
『いろは歌』が編まれたという説もある。

心柱立柱の儀
檀信徒が五色の糸を引くと
天から心柱が降りてくる。

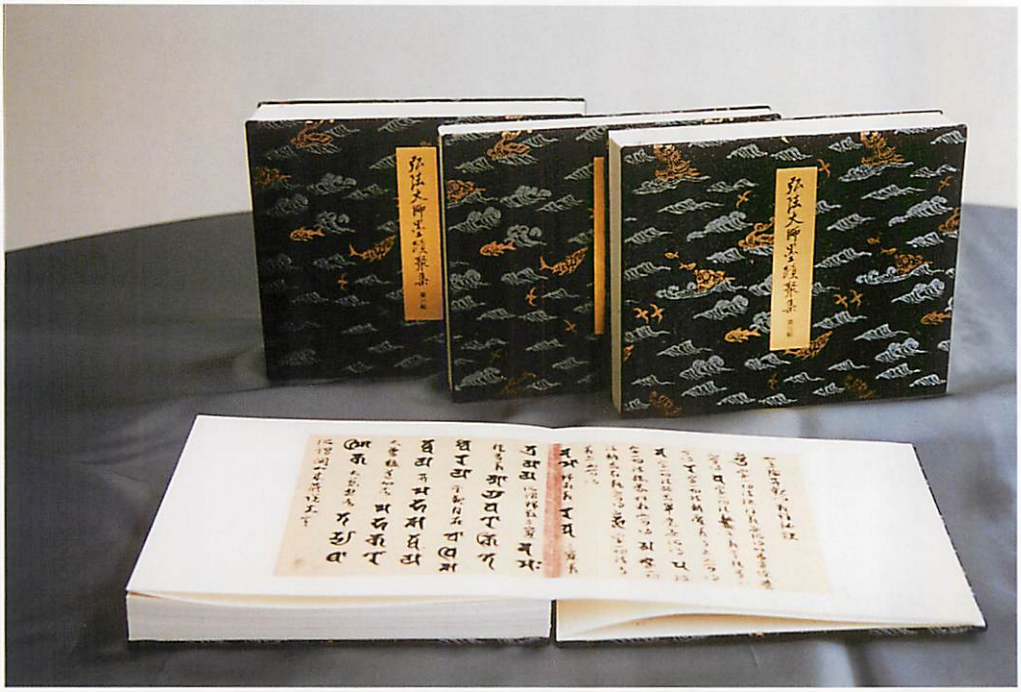
檜皮葺き　薄い檜の皮を何層にも重ねていく。京都の檜皮葺きの棟梁も六十年間で新築の塔は初めてとのこと。

大塔入仏開眼慶讃大法要と、武原はんさんの奉納舞

大塔落成慶讃の光と華の法要、萬燈萬華大法要

満願寺ではこの秋、大塔建立十周年記念の萬燈萬華大法要を勤修する

弘法大師墨蹟聚集の全貌　四



原寸大で復元された至宝『三十帖策子』、弘法大師の唐の都、長安での文字が甦る。弘法大師は留学僧として、密教の最高位の阿闍梨恵果和上につく。その前にかの地で、般若三蔵と牟尼室利三蔵という二人のインド僧からサンスクリット（梵語）を学び短日時にマスターした。

恵果和上はひとたび空海にまみえると「あなたが来ることを永年待ちわびていた。速やかに灌頂壇に入りなさい。」灌頂とは密教の奥義を伝える儀式で、密教のすべてを学んだ者にしか伝えられない。空海は五月に恵果和上に会い、翌月の六月に胎蔵法の灌頂を受け、七月に金剛界の灌頂を受け、八月には恵果和上と同じ位、伝燈大阿闍梨位に上り真言第八祖となった。

当時の長安は今の東京やニューヨークに匹敵する世界都市で、世界中から俊英が恵果和上の門下に集まり、その数は千人をこえていた。しかし空海の前にこの三つの灌頂を授かったのは義明阿闍梨ただ一人だった。

灌頂では、それぞれの曼荼羅に華を投げ、その華の落ちたところの曼荼羅の諸尊と結縁するが、空海は毎回、大日如来に華が舞い、恵果和上は大いに喜び「不可思議、不可思議。」といい空海に大日如来の密号「遍照金剛」という最高の名を贈った。そしてこのわずかな期間に二百余巻の密教経典を極め、あらゆる新訳の経論を梵漢で学び尽くされた。

その学びの脅威的な密度の濃さと速さが、この三十帖策子から甦り伝わってくる。
弘法大師は即身成仏という全く新しい思想を打ち立てるが、「即身」という言葉は、この数カ月の間に「即身」にすべてを極められたご自身の中から生まれた言葉だと思う。

『弘法大師墨蹟聚集ー書の曼荼羅世界ー』の申し込み　お申込お問い合わせは
電話０３－３７０５－７２３８　ファクシミリ０３－３７０３－４９７９

等々力不動尊に昨秋から展示された『弘法大師墨蹟聚集』参詣者だけでなく観光にきた人たちも必ず足を止めて熱心に見て、『弘法大師墨蹟聚集』の美しさと書の迫力に感動していく。

前号である方を通じて、フランスの珠玉のような東洋美術の宝庫、パリ・ギメ美術館に『弘法大師墨蹟聚集』が寄贈されることを伝えた。今度は真言宗智山派の三大本山の一つ川崎大師平間寺ご貫首、高橋隆天猊下の発願で、三大本山の連名で、国立国会図書館、大正大学、種智院大学に寄贈されることが決まった。この寄贈の輪がさらに拡がることを期待したい。さて第一回の配本の聾瞽指帰を読まれた読者の方から質問があった。それは

『経典類が国の重要な宝物に等しい時代、図書館もないのに、弘法大師は、どうしてあれだけ多くの経典と文献を自由自在に引用ができたのでしょう。一度読むと全部覚えられてしまったのでしょうか。そんなことが出来たんでしょうか。』

そこで次のように答える。『多分出来たんでしょう。日本の現代の天才的な哲学者の井筒俊彦さんの話ですが、井筒先生は三十数カ国語を自由に操れた方です。ドイツ語やフランス語などは数カ月でマスターされました。必ずその国の言葉をマスターして、原典でその民族や国の思想を研究していました。戦前、アラビア語を学ぶためにアラビア人よりアラビア語が出来るトルコ人が上野に来ていることを聞いて押し掛けてアラビア語をならったそうです。その人はイスラム主義者で、実はヨーロッパ諸国の植民地政策で四分五裂になり無力になってしまったイスラム諸国を日本と協力して欧米に対抗し、やがてはサラセン帝国の栄光を取り戻そう、という人だったそうです。その人は『コーラン』とか基本的な古典は全部暗記していて本なんかは一冊も持っていなかったそうです。そのトルコ人から、もう「私からは教えることは何もない。今度凄い大学者が来るからその学者につくように」、と紹介されました。庭から入ってこいと教えられた代々木の家に行って、庭から声を掛けると、押入の中からヌーッと顔の大きなタタール人が出てきた。イスラムでは大学者を尊敬し大切にするので、みんなが支援するのでお金をあまりもつ必要がない。しかし日本では充分な家賃が払えないので、押し入れを大家さんから借りていたそうです。そのタタール人は一冊も本をもっていなくて、あらゆる文献経典、さらにそれぞれの注釈書まで暗記していたそうです。井筒先生が「八世紀のアラビアの古典でアラビア語学・アラビア文法の聖書とまでいわれた約千ページもある本を学びたい」、というと、そのすべてを暗記していて、しかも注釈書も全部暗記していて、さらに自分の意見をもっておられる。井筒先生が熱を出したとき、その大学者が見舞いに来てくれた。井筒先生が沢山の本を持っているのに驚き「火事になったらどうするんだ。」「火事になったらお手上げです。」「では旅行に行くときはどうするんだ。」「必要な本は持っていきます。」すると大学者は大笑いして「人間のカタツムリだな。そんなのは学者じゃない。学問をしたかったら基礎テクストは全部頭に入れて、その上で自分の意見を縦横無尽に働かせないと学者とはいえない。」その大学者はあらゆる学問に精通していて、千ページをこえる主なテクストは全部頭に入っていたそうです。余談ですがそのタタール人というのは、中央アジアの韃靼人のことで東大寺のお水取りの時、練行衆の走りの行法は韃靼とよばれています。中央アジアとの深いつながりを感じますね。』

お釈迦さまの真理の花束

He should not regard the faults of others,things done
and left undone by others, but his own deedes
done and undone.
As flower that is lovely and beautiful, but is scentless,
even so fruitless is the well-spoken word of one
who does it not.

不務観彼
作与不作
常自省身
知正不正

如可意華
色好無香
工語如是
不行無得

他人の邪悪を観るなかれ
他人のこれをなし
かれの何をなさざるを
観るなかれ
ただおのれの
何をなし
何をなさざりしを
想うべし
まことに　いろうるわしく
あでやかに咲く華に
香りなきがごとく
善く説かれたる語も
身に行わざれば
その果実なかるべし

PHOTO&TEXT　SHU　FUJIWARA

現代の道しるべ

『間』

『間』という言葉は日本人にとって大切な言葉だ。『間』には空間的な『間』と時間的な『間』がある。日本の音楽でも芝居（歌舞伎や能）でも『間』が重んじられ、建築や庭でも『間』が大切にされる。文章でも行間を読むという言葉さえある。書道でも墨が表す文字そのもの以上に墨が生み出す余白の『間』の美しさを味わうとまでいわれる。

社会でも人間関係でもやはり『間』は大切で『間』の取り方がうまくいかないと誤解や争いのもとになってしまう。

『間』が悪ければ『間抜け』になったり『魔が差す』ことになる。

モンゴル大寒波と食料の安全性

モンゴルを大寒波が襲い数百万頭の家畜が失われた。不思議なことにほとんどニュースでも取り上げられなかったが、当山では緊急の募金活動を行い二週間で十万円以上の募金が集まり、モンゴルで建築家展を開きモンゴルと関係の深い建築家、原　尚氏を通してモンゴル大使館に寄付をした。御協力頂いた方に心から感謝します。

環境の激変、加速度的に進むオゾン層の破壊と地球温暖化で、地球全体で出来る穀物の量はどうなるのか。

すでに日本の家庭に入り始めた遺伝子組替食品が研究され、使用されている背景は将来の食料不安が一因だ。

しかし、それならばなおのこと豊かな美田を減反などで破壊せず、あまった米は国が買い上げ、緊急災害や、世界の飢饉に生かせばよい。鯨の頭数も年々増えてきて、北米には毎年数十頭のコクジラが打ち上げられる。頭数が増えすぎたための餓死という説が有力だ。適正な数を超えてしまえば結局滅びてしまう。ヒステリックな、あるいは政治的な環境団体が強すぎるためだ。さてこの稿を書いている今、インドの飢饉がニュースで伝わってきた。

『公』ということと

朝鮮半島に私財のすべてを投じた日本人

野口　遵氏

『公』という言葉が聞かれない昨今だが戦前の三越のかつての社長は子どもの環境の悪化を憂いて、子ども達が歌える良い歌を有名な作詞家と作曲家に依頼して、多くの歌を世に送り出した。宣伝的なことは一切無く。また東武王国を一代で築き上げた根津嘉一郎氏は朝霞に仏教の大伽藍を構想し、仏教を国民教育の殿堂にしようと考えていた。惜しくも構想実現の前に亡くなってしまうが、蒐集した仏教美術を中心にした根津美術館は今でも多くの人が訪れ、また春には弘法大師にちなんだ大茶会『大師会』が行われている。時計王といわれた服部氏も事業の成功後いち早く『服部報公会』を組織に社会への還元を行っていた。

そうした中で野口遵氏は私財のすべてを朝鮮半島にそそぎ込んだ。朝日新聞を中心に日本の朝鮮併合時代を暗黒のごとくいいたてているが、しかし大正十四年に野口氏は朝鮮の鴨緑江の支流三本をせき止め、千メートルの落差を利用した大規模な水力発電をつくり、その電力を基盤に下流興南の地を総合的な工業都市として成功させた。工場、病院、倉庫、警察、従業員の宿舎までの街づくりをし「やすくて良い肥料が供給できれば、農作物も豊富になり、朝鮮の農民生活を安定させ、ひいては商工振興にもつながる。」亡くなる四年前の昭和十五年、自分の財産がどれほどあるかを調べ、私財のすべて、当時のお金で三千万円（今の価格で約三百億円）を朝鮮奨学のために寄付した。設立された朝鮮奨学会は、南北に分かれたいまでも南北から同数の理

事が出て、すでに四万人以上の奨学生を送り出している。この時代の人は経世済民という言葉を経済などと略して使うことはなかった。経世済民からは公利という思想が生まれるが経済からは功利という考えしか生まれない。

原爆と大空襲とカリフォルニア

『広島、長崎の原爆による被害者と東京大空襲による被害者への損害賠償を２０１０年まで認める』と今言えばなにを今更と思うかも知れない。しかしカリフォルニア州議会で信じられない議案が可決された。それは戦争で捕虜になった米兵の被害に対する補償を、関係した企業に２０１０年まで請求出来るという。この法案を受けて今カリフォルニアでは元米軍捕虜と遺族達が日本企業あいてに次々と戦後補償請求訴訟が起こされている。

もちろん日本は旧ソ連を除くすべての連合国と講和条約をサンフランシスコで締結し、賠償や借款すべて終わっている。

とても温厚な、ある日本の大企業のトップの一人は『アメリカに行くと、国防を他国に委ねてはいけないということをつくづく感じるね。同盟や協力して安全を守ってもいいけど、任せっきりではね。アメリカ人とはもちろん仕事の話ししかしないけど、そのことを凄く感じるよ。』

国の守り、エネルギー、そして食料は人任せにしてはいけない。

そのエネルギーの問題で

日本の使用済みウラン燃料プルトニウムはイギリスに送られ再生され日本に戻される。しかしその製品の品質検査データが改竄されしかも、混入するはずのないネジなどが発見された。

あまり大きなニュースにはなっていないが、日本の政府が原因を調査し究明しその結果を公表したというニュースは聞いていない。ＪＯＣの考えられない事故とそれに対応しない政府で、もし核燃料の事故があれば広島長崎を超える大災害につながる。

型にはまったマスコミ報道

警察の不祥事が止まらない。大蔵省と銀行の癒着、農水省の接待疑惑、いったいどこから情報が漏れてくるのか、官僚や警察をたたいて社会が果たして良くなるのか。たたけばたたくほど、官僚も警察も何もしなくなる。たとえばいじめの問題に多くの教師は何もしない。かつてわずかな体罰にもならないようなしかり方にもマスコミは体罰教師というレッテルを貼って葬ってしまった。生徒たちはそれを逆手にとって少しでも教師が手を出そうものなら児童虐待、人権蹂躙、体罰だなどと騒ぎ立てて、教師が手も足も出せない状況をつくってしまっている。少年達も少年の間は犯罪を犯しても、少年法が守ってくれる、という少年法を逆手にとった、少年犯罪が急増している。警察にたいしても、マスコミは加害者の人権にばかり大切にして警察のやる気をそぎ続けたのではないか。それに駐車違反のもみ消しなど、数え上げたらきりがないだろう。マスコミだってその恩恵を受けていると思うが。

マスコミはそろそろ各省庁のプレスクラブを廃止して、独力でニュースを掘り起こさないといけない。今の取材体制が、戦前の大本営発表のようなご用記事的な検証のない記事になったり、今回のような過剰なバッシング報道になってしまう。

『この三十年の日本』を書き立花隆氏とともに田中金脈に風穴をあけた児玉隆也氏や、最近では『日本国の研究』を書いた猪瀬直樹氏、あるいは桜田淳氏といった個人の評論家の意見は、バランスも取れていて、とても良いと思う。彼ら個人ジャーナリストは省庁のプレスクラブへはマスコミからの規制によって入れない。

バッシング報道や揚げ足とりばかりではなく、良い仕事をきちっと評価する大人の報道が求められる。

弘法大師の芸術論四

精神文化史　研究家　西宮　紘

ここで、先に引用した『文鏡秘府論』南巻「論文意」の文が、実は盛唐の詩人王昌齢の『詩格』や釈皎然の『詩議』からそのまま引用されたものであることを言っておかねばならない。確かに、お大師様自身の文章ではないのだが、文学という時空においては、そのレベルでの踏み込み方というものがあり、それはそれでその閾というものを心得ておられるわけで、その上で、どの文を引用するかは、お大師様の裁量に委ねられているのである。例えば、「至解に属す…中道あるがごときか」という皎然の文を選択するのもお大師様の裁量によってなのだ。実際、私が引用した部分も含めて、「論文意」のかなり重要な部分が、後に書き改められた『文筆眼心抄』の冒頭「凡例」に位置づけられたという意味でも、お大師様の思い入れはなかなかのものであったに違いない。

あるいは『詩格』からの引用で言えば、文章を作るに当たって、思いが浮かばない場合には、「須らく情を放にして却って之ヲ寛やかにし、境をして生ぜしむべし。しかる後に境を以て之（心）を照らせば、思いはすなわち来たり、来たればすなわち文を作る」とあるが、これは、「勅賜の屏風を書し了って即ち献ずる表」に出てくる書を書くに際して、「必ず須らく心を境物に遊ばしめ、懐抱を散逸す、法を四時に取り、形を万類に象るべし…」という文章と非常によく似ている。この上表文にしても、実は、蔡邕の『筆論』における、「書は散なり。書かんと欲わばまず懐抱を散ずべし。情に任せ、性を恣にしてしかして後に之を書す」という文が下地にある。「情を任せ、性を恣にして」とは、心の働きを自由にして、心の本体である性を天然自然の状態におけ、と言うのである。これは『詩格』からの引用文の「情を放にして却って之を寛やかにして」、すなわち、心を解き開いてのびやかにすることであって、両者の意味するところにそれほどの差はない。

さらに「論文意」の他の箇所では、詩は、目にしている「景物」と「意」とがぴったり合うとすれば、その両者をまさに「相い兼ねて道うべし」とあり、その景物は「必ず須らく好く四時（四季に似る者なるべし。春夏秋冬の気色は、時に随いて意を生ず。この意を取り用うるには、これを用うる時に、必ず須らく神（精神）を安んじ慮（思い）を浄くすべし。目もてその物を見れば、すなわち心に入る。心にその物通じ、物通ずればすなわち言う（対象はそのまま表現される）。その状を言うこと、須らくその景に似るべし。語は須らく天海（宇宙）の内を、皆な方寸（心の中）に納むべし」と。これもまさに、上表文の「法を四時に取り、形を万類に象るべし」に相当するではないか。

そして、王昌齢の「皆な須らく身は意の中に在るべし、もし詩の中に身無からば、すなわち、詩は何に従りてか有らん。この故に詩は身心の行李（動き）を書き、当時の憤気を序す（述べる）」という文を引用するとき、お大師様は身・口・意のトリコトミーを通した目で観ておられたのではないだろうか。ただ、『文鏡秘府論』はあくまでも詩文の手引書として書かれるべきものであり、したがって、それ以上は踏み込むわけにはいかなかったのである。いずれにせよ、『文鏡秘府論』南巻「論文意」の主要部分がほとんど『文筆眼心抄』の冒頭に据えられたということは、詩文を作るに当たって、その技術的なもの以前に、何が大事なものであるかを、お大師様が考えられておられたかを示す点で恰好の資料と言えよう。しかも、そこで述べられている内容は、先に上げた上表文の内容とほとんど差が無いという点で、中国人の考え方に通底するもの、さらにはそれに対するお大師様の裁量すべき基準としての視座、私はこれを「静慮」ないしは「禅定」と考えているのだが、そういうものを示唆してくれているのである。

なお、お大師様は王昌齢の『詩格』の一巻を唐より請来されていることがはっきりしているが、これは王昌齢以後の世代の詩人の詩も入っているために、後人の手に成るものではないかともされている。

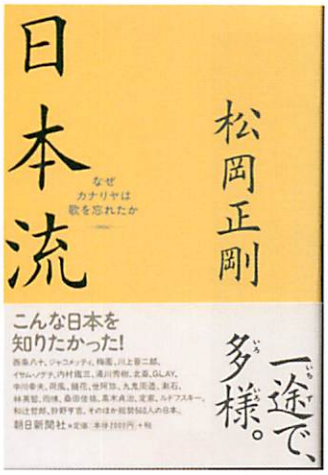
西宮　紘　1941年生まれ　京都大学理学部物理学科卒業　著書『空海　火輪の時空』

『日本流』

松岡正剛　春秋社

日本の多様性をこれほどわかりやすく魅力的に説くのは松岡氏ならでは。独特の語り口で、日本を浮き上がらせている。

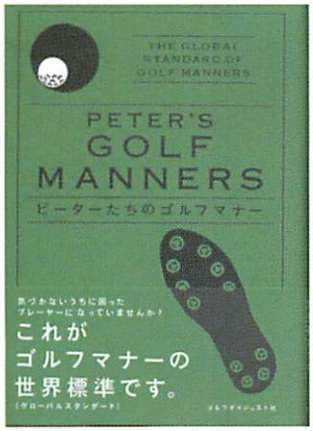
例えば
東の畑作優位社会
西の水田優位社会
東のイロリ
西のカマド
東のウマ中心社会
西のウシ中心社会
東のハカマ
西のフンドシ
東の湯
西の風呂
東の布
西の米
東の金
西の銀



また童謡について日本最初に唄われた童謡は『かなりや』で作詞が西条八十。鈴木三重吉が創刊した『赤い鳥』に大正七年十一月号に掲載された。鈴木三重吉は当時の俗悪な子供向け出版物に反発し創作童話を考え、さらに子供達が口ずさめる童謡の必然性に気づいたこと。そして芥川龍之介に『蜘蛛の糸』を書かせ、泉鏡花、菊池寛、北原白秋など言葉の精鋭達に自由に物語や詩歌を書かせ「幼な心」を対象とした子供文化を開花させることに挑んだ。この流れの中で慶応幼稚舎にいた藤山一郎は歌にめざめ、池田弥三郎は、童謡から折口民俗学による日本に開眼出来たという。

『ピーターたちのゴルフマナー』

鈴木康之著　ゴルフダイジェスト社



今の日本の社会からは基本的なルールが失われているが、実はそのルールを存在させる基盤がマナーだろう。

かりにルールがわからなくてもマナーが身についていれば、どんな国に行っても、どんな社会でも良い人間関係を築くことができる。逆にマナーがなっていなければ、どんな記録を作っても人間としては認められないだろう。同伴競技者に挨拶が出来ないトップアマ。傲慢な態度でインタビューに答えるトッププロ。

かつてはマナーの達人がいた。白州次郎はあるゴルフ倶楽部で現役の総理を叱責した。

このマナーを初めてつまびらかにした本書はゴルフ以外にもいまの社会に共通することが沢山ある。

プロゴルファーのピーター・テラバイネンのプレー態度を金剛経の一節『応無所住而生其心』に通じるものがある、と著者独特の解説も面白い。

『日本全国湧水ガイド』

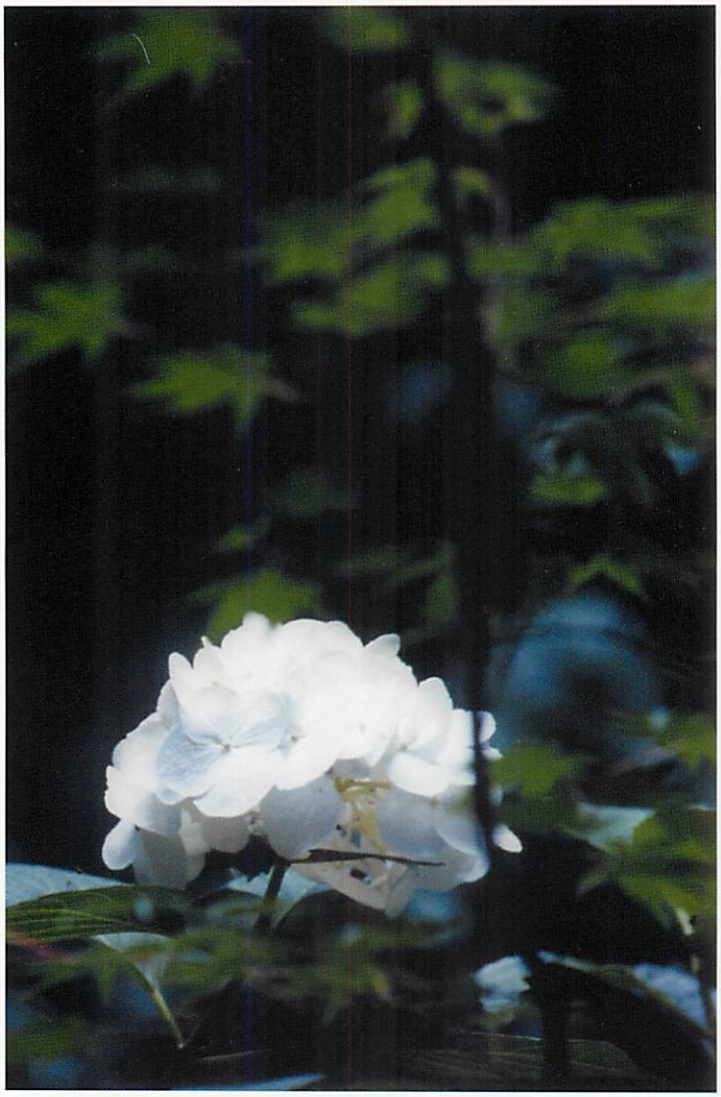
マガジンハウス社

日本各地に今も美しい湧き水がある。著者が訪れた二百四の湧き水を紹介している。

しかしそうした湧水も年々減少していて何年後かに訪れると消えてしまっている湧水も少なくないという。

夏休みに家族と訪れたり、旅行先から足をのばして訪ねると良い。

不動の瀧や弘法大師の清水など仏教やお大師さまと深いかかわりのある名水も多く、美しい写真で紹介されている。



次回発行は９月１日予定

特集　チベットの光と影

Editor RYUJU ABE　Art Director and Photographer/SHU FUJIWARA　Spescial Contributors/RYUICHI ABE KO FUJIWARA
Editorial Staff/ MIWA SAMURO KOJI TOKUMARU REIKO ONUKI KAZUFUMI MOTOYAMA IIDA SHUNJI
HOMEPAGE DESIGN MASAAKI OKA HIROYUKI HANAWA Making Mechanic SANMITUSHA+BENRIDO Printing KORINKAKU
PUBLISHER RYUBUN ABE　EDITOR RYUJU ABE　EDITORIAL OFFICE MANGANJI SHUGEISHUCHIIN S.H.C

〒158　東京都世田谷区等々力3-15-1　電話03-3705-1622　ファクシミリ03-3703-4979

Shingon Horonic Irowanioedo　第一巻第十五号　平成十二年水無月一日発行